

気になる前兆、
意外な病気にご用心!

ある痛みに分けられます。

胸がチクチク痛むという場合は、肋骨と肋骨の間の筋肉の疲労や伸縮からくる「筋肉の痛み」なので心配いりません。また、痛みの原因が「带状疱疹」であるケースもあります。

心配なのは、心臓病です。「狭心症」は、心臓の筋肉の一次的な酸素不足による障害で、締め付けられるような胸の痛みが数分続きます。長くても30分以内で治まるので、ついそのまま受診せずに済ませてしまう人が多いのですが、たいへん危険な徴候です。「心筋梗塞」は心臓の筋肉が壊死した状態で、恐怖を伴うほどの激しい胸の痛みが30分以上続き、痛みが肩まで放散することもあります。いずれも、速やかに医療機関へ駆けつけてください。

肺の病気では、「胸膜炎」「肺炎」「自然気胸」「肺がん」などが主な胸痛の原因です。これらはせき、痰などの呼吸器症状を伴います。

意外に思われるかもしれませんが、内臓による胸痛の原因で最も多いのが「逆流性食道炎」

です。男性では30〜50代に多く、女性では60歳以上の人に増えています。逆流性食道炎は一般に胃液が逆流して、食道の粘膜を傷つけるために起こります。胸痛の原因が食道炎と分かれれば、胃酸を強力に抑えるプロトンポンプ阻害薬の内服で治ります。

おなか、みぞおち、背中が痛い

**痛みが増強していく場合は
我慢しないで早急に受診**

おなかと一口にいつても、そこにはいろいろな臓器があります。

胆のうや肝臓は右脇腹の肋骨の下にあり、「胆石発作」による腹痛はこのあたりが痛みます。胃はおなかに食べ物が入っているか、立っているか寝ているかによって位置は変わりますが、みぞおち付近に痛みがきます。胃に続く十二指腸もみぞおちが痛みます。「胃・十二指腸潰瘍」が代表的なものです。おへそと右骨盤の出っ張りの中央付近に強みを感じたら「虫垂炎(盲腸)」の疑いが濃厚です。「大腸炎」で下痢をしていると

きは、出口に近い部位ほど炎症が強く、下腹部か下腹部のやや左側に痛みを感じます。「膀胱炎」は下腹部です。このほか、子宮や卵巣に異常が生じているときも下腹部に痛みが起こります。

おなかの臓器でも、「脾臓」「腎臓」といった背中側の臓器の異常は、腹痛の部位が漠然としています。脾臓は背中の中、腎臓は左右の肋骨下付近が痛みます。

これらの痛みが我慢できないほど強かったり、痛みが次第に

強くなっていく場合は、速やかに受診してください。

体を動かすと痛みが増強するときも要注意です。中には手術が必要な場合もあり、早急な見極めが必要です。例えば、胃潰瘍の痛みを我慢した結果、胃や十二指腸の壁に穴が開く「消化性潰瘍穿孔」の場合は、食べ物や雑菌がおなかの中に入らまれば腹膜炎になります。また、おなかの中央部を縦走する大動脈の壁が突然裂ける「腹部大動脈瘤破裂」では大出血して命にかかわることもあります。

